

特定自主検査を実施するみなさまへ

公益社団法人建設荷役車両安全技術協会

1、特定自主検査記録表の記入について

特定自主検査を実施するみなさまへ記録表の記入についてお知らせいたします。

1-1、分解交換の「⊗」記号導入について

従来、交換の「×」記号は、アッセンブリー交換のみに使用し分解を伴う内部部品交換は補修の「△」記号としてまいりました。

これは、以前、例として油圧シリンダーアッセンブリー交換でもシリンダー・シール交換でも交換の「×」記号を使用していたため事業者（依頼者）が誤解する可能性がありましたので、分解を伴う内部部品交換は補修の「△」記号を使用することとしました。

しかし、検査業者より、内部部品を交換しているのに補修の「△」記号は違和感があるので、内部部品交換でも交換の「×」記号を使いたいとの意見も寄せられました。

本年度分科会等でこれら意見に対して解決策を検討した結果、新たに、分解交換の「⊗」記号を導入することとしました。

分解交換の「⊗」記号は、自動車の定期点検整備記録簿に使用されています。

以下に記入要領（TC-ZC-02-N）の抜粋を記載します。

(1) 記入要領（TC-ZC-02-N） (2、検査事項部の記入) (2) 補修内容の記入例) より

記号順位	記号	区分	意味	作業例
1	×	交換	検査の結果、交換した。 部品（アッセンブリー）、油脂類、液類の交換作業など	・バケットの爪、摩耗大のため交換 ・油圧シリンダーをアッセンブリー交換した。 ・ヘッドライをアッセンブリー交換した。
2	⊗	分解交換	検査の結果分解して部品交換した。	・ブレーキを分解してライニングを交換した。 ・油圧シリンダーを分解してシールを交換した。 ・ヘッドライトを分解して、バルブを交換した。
3	△	修理	検査の結果、修理した。（溶接、板金、作業など）	・取付穴を溶接肉盛り修理した。 ・シリンダーロッドの擦り傷を修正した。
4	A	調整	検査の結果、調整した。 （各部遊び、すき間、角度などの調整作業）	・タイヤの空気圧不足のためエア調整 ・クラッチ切れ不良につきペタルの遊び調整
5	T	締付	検査の結果、締付けた。 （緩んだ箇所を増し締めする作業）	・ホイールナットの増し締め ・旋回ベアリング取付けボルトの増し締め
6	C	清掃	検査の結果、清掃した。 （粉塵、油などによる汚れを取り除く作業）	・ブレーキドラム内の汚れの清掃 ・エアクリーナーの汚れの清掃 ・バッテリーのターミナル部の清掃
7	L	給油水	検査の結果、給油（水）した。 （油脂、液類を補給する作業）	・エンジンオイルが不足のため補給 ・バッテリーの液が不足のため補給
8	—	該当なし	検査する当該機械に記録表の検査箇所がない場合は、検査結果欄及び補修内容欄に記入する。	

a. 補修内容欄には、表の記号（×, ⊗, △, A, T, C, L）を記入する。

（新たに、分解交換の⊗記号を導入しました。）

分解交換の⊗記号が記載されていない記録表で使用する場合は、4. その他 Q&A⑨を参照のこと。

b. 作業が複数に渡る場合は、表中の記号順位に従い、その中で最も高い順位の記号を記入する。

例. 油圧シリンダーを分解してシールを交換した。この作業には、部品交換の外にロッドの擦り傷の修正を行った。この場合補修内容欄には、⊗を記入し、修理した△は記入しない。

No.	検査箇所	検査内容	検査方法	検査結果		補修内容
				良	不良	
27	油圧シリンダー	作動、油漏れ、伸縮量、V痕、亀裂、 面がり、擦り傷	グーム用 グーム用 バケット用	レード用 スイング用 アセット用	✓ ✓	
						✓ ⊗

(2) 記入要領 (TC-ZC-02-N) (4. その他 (2) 記入事項のQ&A) より

⑨: Q記録表の記号欄に分解交換の⊗が記載されていない記録表に、分解交換の⊗記号を使用して良いのか。

A分解交換の⊗記号が記載されていない記録表で使用する場合は、備考欄等の余白に分解交換の⊗記号を追記して使用してください。

分解交換の⊗記号記入例

「✓」印の記号を記載する。

略した場合は*印を○で囲む。
な補修内容等の詳細説明を要する

取得した) 機械は、荷役装置又は
されるものについては、当該部分

検査項目とした。

』との共通検査項目であり、★★

分解交換 ⊗

記号	交換	修理	調整	締付	清掃	給油水	該当なし
	X	△	A	T	C	L	—

補修等	
照合No.	補修箇所及び不具合状況
	分解交換 ⊗

1-2、電子制御燃料噴射（コモンレール、EFI、EGI 等）搭載車の記入について

特定特殊自動車排出ガス規制に伴い電子制御燃料噴射（コモンレール、EFI、EGI 等）の搭載車が増え検査時に異常が発見された場合それ以上の検査が出来ないため、検査業者から検査記録表の記入方法等の質問等が、建荷協に寄せられるようになりました。

下記に記入方法を記入要領（TC-ZC-02-N）より抜粋を記載します。

(1) 記入要領（TC-ZC-02-N）（2、検査事項部の記入（1）検査結果の記入）より

c. 電子制御燃料噴射（コモンレール、EFI、EGI 等）搭載車の場合

区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	検査結果		補修内容
					異常	不異常	
エンジン	1	* a 始動性 * b 回転の状態 * c 排気の状態 * d エアクリナー * e 燃料噴射 * f 弁すき間 * g 圧縮圧力 * h 噴射圧力 * i 噴霧状態 * j 過給機 * k エンジンマウント	✓ 奇り具合、異常音、予熱灯・センサーの作動	目視、聴音、確認	✓		
			✓ クセルの作動、回転具合	目視、聴音、確認	✓		
			✓ イドリング回転 (750 min ⁻¹)、無負荷最高回転 (2,600 min ⁻¹)	回転計	✓		
			✓ 排気色、異常音、クラー等のガス漏れ	目視、聴音、確認		✓	
			✓ 汚染のき裂、変形、腐食、レメントの汚れ、損傷、油染	目視、聴音	✓		
			シリンダーヘッド、マニホールド締付けボルト・ナットの緩み	トルクレンチ	✓		
			弁すき間(最大 mm 最小 mm) (排気大 mm 最小 mm)	シクネスゲージ			
			圧縮圧力 (MPa) 1 2 3 4 5 6	圧縮圧力計			
			噴射圧力 (MPa) 1 2 3 4 5 6	ノズルテスター			
			噴霧状態 異常・不	目視、ノズルテスター			
			異常振動、異常音、ガス漏れ、潤滑油漏れ	目視、聴音	✓		
			✓ クラケットのき裂、変形、腐食、異音、異振ゴムの損傷、劣化	目視、聴音等	✓		

(i) 異常がない場合は、検査を省略できることに該当するので「*」印を○で囲み検査を省略したことを表す。

検査結果の良欄に「レ」印を付すこと。

(ii) No.1 の a~c に異常がある場合

例. No.1 c の排気色に異常がある場合、No.1f~i の検査が必要となる。しかし、「電子制御」エンジンは検査不可能のため④「検査内容」欄の「電子制御」を○囲いし電子制御であることを表す。

(iii) ⑥の「検査結果」欄及び⑦の「補修内容」欄に「一」を記入し検査に該当しないことを表す。

(iv) 事業者への要請等欄にその旨を下図に示す例のように記入すること。

事業者への要請等	No.1 「電子制御」検査の結果、エンジンに不良が見つかりましたので電子制御エンジンの故障はメーカー等に点検を依頼してください。

1-3、ACモーター搭載のフォークリフトの記入について

ACモーター搭載車が増え従来からの検査が該当しないため検査業者から検査記録表の記入方法等の質問等が、建荷協に寄せられるようになりました。

下記に記入方法を記入要領（TC-ZC-02-N）より抜粋を記載します。

(1) 記入要領（TC-ZC-02-N）（2、検査事項部の記入（1）検査結果の記入）より

d AC制御式のフォークリフトの場合

- ・AC制御式のフォークリフトは、その制御方式において過電流を制限し、モーターの損傷を防いでいるので過電流制限装置に該当するものはない。
- ・安全装置も同様に異常発生時は、エラー表示や車両を停止させる機能が備わっている。
- ・走行・荷役に異常がなく、ディスプレイにエラー表示が無ければ異常はない。

- (i) 異常がない場合は、④「検査内容」欄のAC制御に「レ」印を付す。
- (ii) 該当しない④「検査内容」欄に「一」を付し、該当しないことを表す。
- (iii) ⑥「検査結果」欄の良欄に「レ」印を付す。

③ 検査箇所	④ 検査内容	⑤ 検査方法	⑥ 検査結果		⑦ 補修内容
			良	不良	
e 過電流制限装置	モーターの最大電流値(走行用) 一 A・荷役用 一 A・AC制御	電流計	レ		
f 安全装置	コンタクターの作動(モーターを引き開く・開かない・閉じない) AC制御	目視、操作	レ		

1-4、省略の「*」記号について

同一項目でも「*」がそれぞれ添付されている例を見直しました。

例「*フィルターの汚れ・*目詰まり・*損傷、」→「*フィルターの汚れ・目詰まり・損傷、」

下記に記入方法を記入要領（TC-ZC-02-N）より抜粋を記載します。

(1) 記入要領（TC-ZC-02-N）（4.その他（2）記入事項のQ&A）より

⑩ Q省略の記号の「*」以降の「・」同項目は省略して良いのか。

A 項目に異常が無い場合は省略の記号の「*」印を○囲いして検査を省略したことを表すので「・」以降の同項目も同様です。

たとえば、**○***フィルターの汚れ・目詰まり・損傷、と最初の省略の記号の「*」○囲いで以降は省略します。

2、現行の記録表の記入について

2-1、分解交換の ⊗ 記号の掲載がない記録表の場合

分解交換の ⊗ 記号が記載されていない記録表で使用する場合は、備考欄等の余白に分解交換の ⊗ 記号を追記して使用してください。

分解交換の ⊗ 記号記入例

「✓」印の記号を記載する。
略した場合は*印を○で囲む。
補修内容等の詳細説明を要する
取得した機械は、荷役装置又は
されるものについては、当該部分
検査項目とした。
」との共通検査項目であり、★★
分解交換 ⊗

分解交換 記号	交換	修理	調整	締付	清掃	給油水	該当なし
	X	△	A	T	C	L	—

照合No.	補修箇所及び不具合状況
	分解交換 ⊗

補修等

2-2 電子制御燃料噴射（コモンレール、EFI、EGI 等）の記載がない記録表の場合 異常がある場合は、下記のように記載して下さい。

「検査結果」欄及び「補修内容」欄に電子制御燃料噴射（コモンレール、EFI、EGI 等）搭載車であることを記載してください。

また、事業者への要請等欄にその旨を記入して下さい（P3 1-2（1）（iv）参照）。

区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	異常発生 及 不良	補修 内容	
エ ン ジ ン	1	本体	★ a 始動性	かかり具合、異音、予熱灯・エレクトーンの作動	目視、動作、聴診	✓	
		★ b 回転の状態	✓ クレートの作動、回転異常 ✓ イドリング回転(750 min ⁻¹)、無負荷最高回転(2,600 min ⁻¹)	目視、動作、聴診	✓		
		★ c 排気の状態	排気音、排気管・マフラー等のガス漏れ	目視、動作、聴診		✓	
		★ d エアクリナー	エアのき裂、変形、破損、エレメントの汚れ・損傷、油膜	目視、聴診	✓		
		★ e 潤滑油	シリンダーヘッド、マニホールド給油付ボルト・ナットの緩み	トルクレンチ	✓		
		★ f 弁すき間	弁すき間(最大 mm・最小 mm)(排最大 mm・最小 mm)	シクネスゲージ			
		★ g 圧縮圧力	圧縮圧力 (MPa)	1 2 3 4 5 6	圧縮圧力計		コ モ ン レ ー ル
		★ h 噴射圧力	噴射圧力 (MPa)	1 2 3 4 5 6	ノズルテスター		
		★ i 噴霧状態	噴霧状態 良○・不良×	1 2 3 4 5 6	目視、ノズルテスター		
		★ j 過給器	異常振動、異音、ガス漏れ、潤滑油漏れ		目視、聴診	✓	
		★ k エンジンマウント	ラケットのき裂、変形、破損、破断、防振ゴムの損傷、劣化		目視、シグ等	✓	

※ガス漏れ、水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。
※弁すき間の異常による異音がなく、検査項目 No.a,h,c に異常がない場合は、この検査を省略してもよい。

2-3 過電流制限装置欄に AC 制御の記載がない記録表の場合

(i) AC 制御の記載がない記録表は、下記のように「検査結果」欄及び「補修内容」欄に AC 制御であることを記載してください。

(ii) 良好な場合は、「AC 制御」に「レ」点チェックをし、異常がある場合は○囲いをして下さい。

(iii) 「検査内容」欄は「—」を引き該当なしとして下さい。

なお、走行のみ AC 制御の場合は、「検査内容」欄の走行用のみ「—」を引き荷役用は従来通り計測して記載して下さい。

検査箇所	検査内容	検査方法	検査結果		補修内容
			身	不良	
e 過電流制限装置	モーターの最大電流値(走行用—A・荷役用—A)	電流計	✓		AC制御

以上